

卵巣腫瘍におけるヒト精巣上体タンパク 4(HE4)の発現に関する検討

◎飯田 晃大¹⁾、渡具知 克¹⁾、望月 紀英¹⁾、野村 希¹⁾、藤田 大貴¹⁾、小林 莉来¹⁾、對馬 愛¹⁾、町田 知久¹⁾
東海大学医学部附属八王子病院¹⁾

[はじめに]

近年での卵巣癌と診断された患者数は年間 13000 例で増加傾向である。5 年生存率は 60%程度で年間約 5000 人が亡くなっている疾患である。臨床的には卵巣癌のマーカーとして主に CA125 が用いられる。血漿値と腫瘍活性に相関関係があるとされているが、免疫組織化学染色では病理診断上の診断特異性は高くないとされている。そこで、卵巣癌の血漿腫瘍マーカーとして 2017 年 4 月より保険適用となったヒト精巣上体タンパク 4(human epididymis protein 4:HE4)の抗体試薬を用いて免疫組織化学染色の検討を行った。

[対象]

手術摘出した卵巣腫瘍を研究材料とした。

[方法]

1)卵巣腫瘍組織診標本を用いて、抗原賦活、検出法、発色剤について至適条件を決定した。2)32 例の卵巣腫瘍組織診標本を材料に、抗 HE4 抗体発現の有無と卵巣癌症例での陽性率、抗 CA125 抗体の染色結果との比較について検討した。

[結果]

1)pH9.0 Citrate Buffer を用いて室温で 1 時間賦活処理を行い、ポリマー法で検出することにより安定した染色結果が得られた。2)卵巣癌 25/29 例に発現を認め、卵巣良性腫瘍 0/3 例は発現を認めなかった。卵巣癌症例での陽性率は 86%であった。卵巣癌症例における抗 CA125 抗体の陽性率は 83%であったが、抗 HE4 抗体と抗 CA125 抗体のどちらか一方でも発現を示した場合の陽性率は 93%と高率であった。

[まとめ]

抗 HE4 抗体は特に卵巣癌症例において陽性率が 86%で診断に有用なマーカーであるが、抗 CA125 抗体と併用することで卵巣癌症例における陽性率の高率化が期待できる。

連絡先：042-639-1113 (内線 4191)